

朝日新聞に記事が掲載されました

眼内レンズの違い理解して

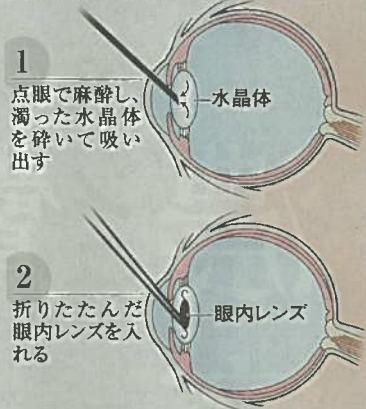
白内障に「単焦点」と「多焦点」

年を取ればだれもがなると言われる白内障。症状が進むと水晶体を取り出して、代わりに「眼内レンズ」を入れる手術が必要になることが多い。焦点が複数ある眼内レンズを使えば眼鏡が必要なくなることもあるが、長所と短所を理解して選択することが重要だ。

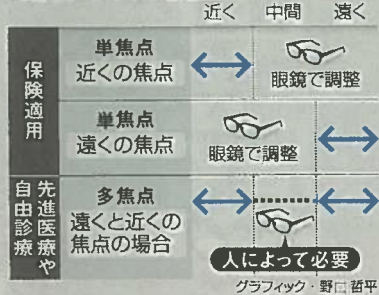
生活に合わせて選択

水戸市の貿易会社の男性役員(69)は、60歳になったころ白内障と診断された。白内障は目の水晶体が年齢とともに白く濁り、視力が落ちる病だ。60代で6割、70代では8割以上に水晶体の濁りがあるとい

白内障の手術(超音波法)



眼内レンズの焦点



波法という方法だ。点眼麻酔の後、超音波で濁った水晶体を砕き、吸引する。そこに折りたたんだ人工の眼内レンズを入れて固定する。10〜20分で終わる。眼内レンズには焦点がひとつの単焦点と、主に二つある多焦点のものがある。

男性の主治医、小沢眼科内科病院(水戸市)の小沢忠彦院長は時間をかけてレンズの特徴を説明した。単焦点は比較的是っきり見えるが、ピントの合わない部分は眼鏡が必要になる。読書が趣味なら近距離

離、屋外で遠くを見る機会が多いなら遠距離、といった具合に生活に合わせてレンズの焦点を選ぶことができる。公的医療保険が適用され、片目の日帰り手術の場合、医療機関によって多少の差はあるが3割負担で5万〜6万円ほど。

一方、多焦点は眼鏡なしの生活が期待できるが、レンズの構造上、焦点を結ばない光があり、くっきり感はない光がにじんだり、まぶしく感じたりするクレーアと呼ばれる現象がある。多焦点は公的医療保険の適用になっていないが、先進医療に認められており、検査費などに保険が適用される。全国400以上の医療機関で実施され、費用は片目で30万〜50万円ほど。国内の年間約140万件の手術のうち、多焦点は1〜2%を占める。

多焦点は公的医療保険の適用になっていないが、先進医療に認められており、検査費などに保険が適用される。全国400以上の医療機関で実施され、費用は片目で30万〜50万円ほど。国内の年間約140万件の手術のうち、多焦点は1〜2%を占める。

多焦点は公的医療保険の適用になっていないが、先進医療に認められており、検査費などに保険が適用される。全国400以上の医療機関で実施され、費用は片目で30万〜50万円ほど。国内の年間約140万件の手術のうち、多焦点は1〜2%を占める。

多焦点は公的医療保険の適用になっていないが、先進医療に認められており、検査費などに保険が適用される。全国400以上の医療機関で実施され、費用は片目で30万〜50万円ほど。国内の年間約140万件の手術のうち、多焦点は1〜2%を占める。

多焦点は公的医療保険の適用になっていないが、先進医療に認められており、検査費などに保険が適用される。全国400以上の医療機関で実施され、費用は片目で30万〜50万円ほど。国内の年間約140万件の手術のうち、多焦点は1〜2%を占める。

手術後の満足度に差

日本眼科医会が毎週実施している「目の電話相談」では、2014年度の相談549件のうち、70件が白内障手術に関するものだった。術後の視力や見え方に不満を訴える声も多いとい

「多焦点眼内レンズを入れたがよく見えない」という相談もあり、小沢さんは「術前の過度な期待とのギャップがある」と話す。山王病院(東京都)の高橋正英医師(眼科)が08

14年に多焦点眼内レンズを両目に入れた26人を調査。満足度は平均80点だった。30点から100点まで開きがあった。眼鏡を使っている人は約半数で、多焦点を入れた後に、単焦点に交換する再手術を2人が受けていた。高橋さんは「光がにじんで見えることなど、手術前に術後の見え方がイメージしにくいことが不満につながっているのかもしれない」と語る。

一方、多焦点眼内レンズには、先進医療で認められるもの以外に、自由診療で使われる多機能レンズも次々に出てきている。焦点が3カ所だったり、乱視に対応できたりするというレンズもある。こうしたレンズの手術を1300件以上手がけてきた、みなどみらいアイクリニック(横浜市)の荒井宏幸主任執刀医は「術前にしっかり検査し、個々に説明することが必要」と指摘する。

多焦点眼内レンズを入れると老眼鏡が必要なくなることもあるため、荒井さんは「将来は老眼手術としても浸透していく可能性がある」と話している。(合田 稜)